

年 始 市 長 訓 示

平成25年1月4日（金）午前9時
本庁舎8階大会議室A

皆さん、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、職員の皆さんも新たな気持ちで登庁されたことと思います。

今年は、津市総合計画後期基本計画がスタートし、本市のまちづくりの新たなステージが幕を開けます。

現在、市民の皆様や地域の方々から頂いた意見を踏まえ、策定に向け大詰めを迎えていますが、この計画は、市民の皆様の期待や思いをしっかりと受け止める計画として、「絵に描いた餅」といわれることなく着実に推進していかなければなりません。

そこで、私は、年頭に当たり、「郷土津市のために尽くす」という初心に立ち返り、今年のテーマとして市政推進の3つの決意を掲げました。

まず一つ目は、「対話の市政」の推進です。

市民の皆様との対話を重ね、まちづくりへの思いをしっかりと受け止め、実現していくことは、市政の基本です。

私も市民の皆様との対話を常に心掛け、「市政懇談会」をはじめ、様々な機会を通じて、皆様の御意見や御提言を伺ってきました。

津波対策を強化するための柱としている津波避難ビルの指定は、自治会の方との対話で頂いたアイデアから生まれたものであり、津波避難協力ビルは、ビルの所有者との対話により実現したものです。

また、フランスやスイスの機関と津市の中小企業とのマッチング支援も事業者との議論から生まれたものです。

このように市民との対話から新たな施策が生まれたり、施策が進展したりしており、昨年からは、市民と共にまちづくりを考える新たな手法としてオープンディスカッションを開催し、新しい形の対話の場も創出しています。

対話の市政を推進するには、市民の方から頂いた御意見や御要望を、すぐに「できるもの」と「できないもの」に整理するとともに、その方向性をお示しし、「できるもの」から迅速かつ着実に実現していかなければなりません。

「対話」から、さらに実現に結びつけていくこと。目に見える形にして、市民の皆様の期待にきちんと応え、頼りにされる市役所だといわれる「即答・即応し実現する市役所」。この言葉は後期基本計画案にも掲げておりますが、これを今年の課題とし、一丸となって取り組んでください。

次に、「前進する市政」です。

災害対応力強化集中年間として、津波避難ビル・津波避難協力ビルの指

定推進や自主防災活動活性化交付金の創設など、新たな防災施策を展開し、地域防災計画につきましても224項目の見直しを行い、間もなくまとまる所です。

そして、次なるステップとしては、これまで取り組んできた防災施策に魂を吹き込んでいくことです。

沿岸地域の自主防災組織に津波避難計画を策定していただく、あるいは、災害時要援護者名簿に基づき、支援を必要とする方に、具体的にどのように避難していただくかを決めていただく、さらに、避難所の運営体制を地域の方々と実践する中で、よりきめ細かく準備していただくなど、もっともっと職員の皆さんが地域に飛び込み、災害対応に優れたモデルとなる地域がどんどん生まれるように取り組んでいかなければなりません。

防災施策をさらに強く推し進めるとともに、市政を預かる私たち市職員個々の知識や技術を磨きあげ、防災訓練や図上訓練、避難所の運営体制の強化、十分な備蓄品の確保などにより、災害に備えた体制や組織力を強化し、災害時において市民の皆様から頼りにされる市役所となるよう、もっともっと高みを目指して取り組んでいかなければなりません。

災害に強いまちづくりは、まだまだ緒に就いたばかりです。

国において政権が替わり、補正予算も含めて、防災・減災に新たに財源が準備されるでしょう。こうしたものを積極的に活用し、海岸堤防や避難路の整備、津波避難のための外付け階段や屋上フェンスの新設など、強力

に進めていきましょう。私自身先頭に立って、国への要望を強める行動をとってまいります。

また、本市の4大プロジェクトの25年度の取組状況に関しまして申しますと、最終処分場は、第1期分の建設工事、リサイクルセンターも造成・施設工事を開始します。

(仮称)津市産業・スポーツセンターは、現在実施設計を行っており、駐車場整備から工事を始めます。

新斎場につきましては、PFI手法により選定した民間事業者が、施設の設計・建設工事に着手します。

さらに、JR名松線については、市が行う水路整備では、全26箇所の整備のうち、10箇所の水路整備工事の発注を計画しており、また、県が行う治山事業では、全20箇所の整備のうち、既に5箇所の整備が完成し、続いて8箇所の整備が順次進められる予定で、遅くとも平成28年4月の運行再開を目指しています。

これら4大プロジェクトも着実に推進し、市民の皆さんが安全・安心で暮らしやすいまちづくりに向け、決して立ち止まらない「前進する市政」を目指し、取り組んでください。

そして、最後は、「決断する市政」です。

私は、一昨年、耐震性や旧津警察署跡地における埋蔵文化財の取り扱い

等の課題を抱えていた中央公民館と社会福祉センターの整備について、津センターパレスへの移転を決断し、昨年既に津市まん中老人福祉センターと津市障がい者相談支援センターが移転開設されました。

この決断により、整備の早期実現が可能となっただけでなく、(株)津センターパレスの厳しい財務状況の改善にも寄与することができました。

抱えていた課題を先送りすることなく決断したこの案件は、第3セクターへの行政の関わり方として貴重な実績になりました。

また、老朽化が進む中、方向性が定まらなかった三重武道館の移転新築についても、昨年8月の三重県知事との一対一対談により決定しました。この件につきましては、今年早急に具体化に向けた課題を整理し、整備に向けた取組を進めてください。

さらに、久居保健センター・市民ホールの整備といった久居駅周辺のまちづくりを含め、経営危機に陥っているポルタひさいにつきましても、早急に方向性を決定していきます。

及び腰になって課題を先送りし、曖昧な状態のままで放っておくと、その課題は大きくなり、そして、深刻化する一方です。

課題や懸案事項を先送りしない「決断する市政」を進めていきますので、職員の皆さんも責任感とスピード感を持って取り組んでください。

3つ申し上げました。

「市長の言っていることは、さほど目新しいことではない」と感じたかもしれません。もしそうだとすれば、それが、私が市政をお預かりするに当たって目指してきたものです。

前葉市政が2年経とうとしています。市民が「こうしてほしい」、「こうありたい」と望まれることを当たり前のように迅速に形にしていく市政。それが自治意識の高い津市民にふさわしい津市政であり、そういう市政を実現していくことが津市職員のミッションです。

幸い伊勢湾岸連坦都市では、良い意味での都市間競争が成り立っています。「他市の方が良い、もっとやっている」という声を聞くことが少なくなったとすれば、それは、職員の皆さんのおかげであって、まさに市民の皆様に望まれる津市役所の方向です。

「さすが県都津市。しっかりした行政をきちんと行っている」と言われるよう、一緒に「風格のある県都津市」づくりに力を尽くしていただくことをお願いして、2013年の年始の挨拶とします。

この一年も共に頑張っていきましょう。よろしくお願いします。